



2006年1月31日

各 位

会 社 名 日本電気硝子株式会社
 コード番号 5214 (東証・大証第一部)
 問合せ先 取締役常務執行役員 阿閉 正美
 TEL 077-537-1700

平成18年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年10月28日の中間決算発表時に公表した平成18年3月期業績予想を次のとおり修正します。

1. 平成18年3月期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)業績予想数値の修正

(1) 連 結 (単位: 百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	305,000	49,000	9,000
今回修正予想(B)	295,000	49,000	9,000
増減額 (B-A)	10,000	± 0	± 0
増減率	3.3		
前期実績	310,198	49,236	11,954

(2) 単 独

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	230,000	42,000	8,000
今回修正予想(B)	230,000	57,000	17,000
増減額 (B-A)	± 0	+15,000	+9,000
増減率		+35.7	+112.5
前期実績	223,461	43,124	3,007

2. 理 由

当期においては、予期された以上のスピードでブラウン管(CRT)から薄型パネルディスプレイ(FPD)へと表示デバイス市場の転換が進み、当社もこれに対応するべく CRT 用ガラスから FPD 用ガラスへの事業構造転換を加速させてまいりました。CRT 用ガラス事業については、既にお知らせのとおり平成17年9月に国内生産を停止、同年12月までに欧州における事業を整理して、アジア地域に集約してまいりました。その一方で、FPD 用ガラス事業については、生産供給能力を順次拡充してまいりました。

これらの結果、CRT 用ガラスの売上減が FPD 用ガラスの伸びを上回り、売上高は前予想を下回ります。

単独では、売上面では CRT 用ガラスの国内事業の縮小と FPD 用ガラス事業の拡充が均衡しますが、損益面では FPD 用ガラス事業の拡充が寄与し前予想を上回る見通しです。

なお、上記予想には、第3四半期までに計上した特別損益に加え、平成17年10月28日公表の英国 CRT 用ガラス製造子会社の整理並びに当社の退職金制度改訂に伴う特別損失(連結:約240億円、単独:約180億円)の発生を織り込んでおります。

以 上